



公益財団法人SAJ

# SAJ Farm 通信

vol.28  
2012年 11月号

公益財団法人  
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

## 稲を作付けるにあたって

公益財団法人 School Aid Japan (SAJ) は、学校に行けない子どもたちがいることを知り、お米支援を行っています。そして、孤児院には 80 人の子どもたちがいます。子どもたちが食べるお米は、プノンペン業者から購入しています。SAJ Farm で収穫できたお米をお米支援や孤児院の子どもたちに食べてもらうことができれば、うれしいことです。

SAJ Farm ではお米の増収とカンボジア人の雇用を増やすことを目標にしています。

2011 年に水田・畑・池の造成工事が終わった農場の中に「モデル区」を作り、稲作を始めました。課題は「水の抜ける砂地の水田を、水の抜けない水田に変える」事でした。水田の床をトラックで踏み固め、林に行って落ち葉を集め、沢山の堆肥を作り、砂地にすき込みました。こうして、やっと 1 ha の水の抜けない水田ができました。最初の収穫量は 10a 当たり約 175kg と、カンボジアの平均収穫量 200kg にわずかに及びませんでした。

2012 年、乾季に暖かい気候を利用して 1 ha の水田で 2 期作（1 年の間に 2 回お米を作ること）を始めました。水は農場の 3 箇所に掘った大きな池の水をポンプアップして使いました。結果は、10a 当たり 55kg しか採れず散々な結果に終わりました。ポンプを回す発電機のガソリン代の方が高くなりました。乾ききった土地がすぐに水を吸ってしまい、水田全体に水がまわらなかったことが失敗の原因だと思います。

次に雨季のうちに 2 期作をすることにしました。雨季の終わりに作付けすれば、成育中にも雨が降り水の心配も軽減できると思いました。今は、この雨季での 2 期作目の稲が育っています。田植えは 10 月に行いました。収穫は 1 月頃と予測しています。青くみずみずしい葉が茂り始めたところです。

2 期作をすると忙しいです。人手が足りません。1 期作目を刈り取ったあと、すぐに前の稲をすきこみ、田起こしをして、田植えをしなければなりません。その間に、1 期作目の収穫した稲の乾燥もあります。

夕方には必ず雨が降り、水田にも水の溜まっている場所が多く、2 期作目の田植えしたばかりの稲には大変良いのですが、1 期作目の刈り入れをしたばかりの米の乾燥ができません。

湿度も高く、天日で脱穀後のモミを乾かすには難しい時期です。乾燥がうまくいかないと長期の保管が難しくなります。



2 期作目の水稲の様子です。  
葉の色もよく順調です



田植えの際には写真の様に水があります。この状態が維持できると雑草が少ないのです

これらの対策として事務局長をはじめワタミファームの方々と考えていることは、日本ではどこにも見られるビニールハウスのような簡易の建物を作ってそこで乾燥させてみてはどうかということです。

ただし、カンボジアにはビニールハウスのような建設物はまだありません。そのためほかの手段も視野に入れた上で費用の事や資材の事をもっと考える必要があります。

今期 1 期作目には 1ha の水田に水稻を作付けました。2 期作目はモデル区 1 ha の 1 / 3 に作付けしました。こうして 2 期作を行ってみると、

1 作目 5 月育苗→6 月初め田植え→9 月初め収穫

2 作目 9 月育苗→9 月下旬、もしくは 10 月上旬田植え→1 月収穫

というローテーションが良いとわかってきました。

増収の目的を達成するため、2013 年は 1.5ha の水田に作付けを予定しています。耕運機も 6 台、その他の農機具も、日本から送っていただきました。水に関しては、大きな池が 3 つあり、井戸も 7 本掘っていただきました。

2013 年こそ、米の 2 期作を成功させ、米の増収を図りたいです。

たくさんの方々が関わってくださり、ご指導いただくことでこの農場が成り立っています。農場全部の水田に、稲穂が豊かに実り穂をたれている農場を思い描いて、明日からの作業に取り組もうと思っています。



乾燥中の米



袋詰めされた米

### 編集後記

2 作目の田植えは農場のスタッフのみで行いました。3 人で 1 枚 (14a) の水田に田植えをするには 3 日ほどかかっています。それに対して 6 月に子どもたちとともに行った 1 作目の田植えは、同じ面積ですと 30 分ほどで終わってしまいました。一人一人の力は小さいものでも、それがたくさんになれば大きな力となることに改めて感心してしまいました。「協力すること」とはすばらしいことですね。

飯島